

四

ねん

一

くみ

なまえ

藤岡敬士

大切なお米

ぼくはお米が大好きだ。

白ごはんがあるばあかすは何で

もいい。でも、そのごはんが食

べられない日が二日続いた。熊

本地しんの日ぼくは、ばあちゃん

んの家でとまて出た。おばあ

ちゃんんの家で地しんにあつた。

みんなですぐにみんなしたけれ

ど食べ物は何もなかった。や

とろ日月におにぎりを一人一個

ずつもらつた久しぶりのごはん。

そのおにぎりはとてもおいしか

つた。いつもお母さんがのりたま

ねん

くみ

なまえ

いて作ってくれるおにぎりなほ

くは、あたり前のように食べて

いたけれどお母さんのおにぎり

は世界一おいしかったんだと思

った。お母さんのおにぎり。そ

れは、とても大きくて中におか

かところんぶが入っている。その

時は、そのお母さんのおにぎり

が、とても食べたくなっただいづも

ふつうに食べていたではん。だ

けど、食べられない日があつた

からではんのおいしさとても大切さ

がよく分かった。ぼくが生まれて

いられるのもお米のおかげだ。

ねん

くみ

なまえ

お米とぼくたち人間はつながっ

ているんだ。

「お米一つぶには7人の神様が

いるから一つぶも残さな<sup>い</sup>で食

べない<sup>い</sup>とよくお母さんが言っ

ている。今日から茶碗の中<sup>に</sup>

一つぶものこさないで食<sup>べ</sup>ると

心に決めた。お米に「命<sup>を</sup>あり

がとう<sup>と</sup>というきもちをわすれ

ないでこれからもお母さんのお

にぎり、白ごはんを食<sup>べ</sup>て大き

くなりたい。